

2025 年度 (令和 7 年度) 学校評価自己評価表

済美 中学校区 校番 7 福山市立 済美中 学校

最終更新日 2025年(令和7年)10月1日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区	前年度学校関係者評価の主な内容 校区共通のミッション・ビジョンを持ち、各校の課題に取り組まれています。「主体的、対話的で深く確かな学び」に取り組まれ、学ぶ力、成長する力の授業づくりを大切にされています。他者とかかわりを重視され、不登校児童生徒への取組みも評価できます。今後さらに、児童生徒の活動状況等を広く情報発信し保護者や地域との情報共有に努め、保護者、地域を巻き込んだ教育活動に取り組むとともに、各校の児童会・生徒会の交流の場が必要と考えます。	児童生徒の現状 ○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上に課題がある。 ○学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化できる児童生徒が少ない。 ○相手意識を持った行動が不十分な児童・生徒が多い。 ○長欠・不登校の児童・生徒数が増加傾向にあり、支援が必要である。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	○課題発見・解決力 ○コミュニケーション力 ○他者とかかわり合う力・心 ①自らの目標に向かって努力し、チャレンジしている。 ②場面や目的に応じた豊かな表現力を身につけている。 ③他者とかかわり合いながら共感的人間関係を築き、共によりよく生きようとしている。 ○「選択・決定」「対話の充実」「振り返り」をキーワードに授業づくりを進める。 ○「主体的、対話的で深い学び」のある授業づくりの研修 ○児童会・生徒会活動の活性化による規範意識と共感的人間関係の育成
---------	---	---	--	---

III 自 校	ミッション ○「済美になろう」の精神のもと、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する。 ○地域の一員としての役割意識をもって、地域に貢献できる生徒を育成する。	学校教育目標 人間性豊かに他者とかかわり、確かな学力を身に付け、夢を語り、自らの進路を切り拓く生徒の育成	現 状 <生徒> ・令和6年度全国学力・学習状況調査の国語、数学の平均正答率は、それぞれ、53%、49%ですべて市平均を下回っている。令和6年度学力の伸びを把握する調査では、学力を伸ばした生徒の割合は、3年数学だけが市平均を上回っている。 ・「自分には将来の夢や目標がある」生徒66.7%、「自分にはよい所がある」77.4%、「自分のよさはみんなから認められている」72.0%と県平均を下回っている。 ・メディアの使用時間の増加に伴って、学習時間が減少している。保護者の協力を受けながら家庭学習の支援を継続して行っていく。 <授業> ・「勉強の計画を立てる」49%、「自ら進んで勉強している」59%、「学習を最後までやり遂げてうれしかったことがある」79%、「なぜだろう、やってみたいと思う」58%である ・「教科の面白さを実感している」教員77%、「人はどのように学ぶか、何にますますかについて関心を持ち、教材研究を行っている」教員61%、「自分が知らないことを生徒と一緒に考える時間が楽しい」教員77%である。	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 1年 2年 3年	○課題発見・解決力 (問いを持つ 振り返る 見通す) 活動して気付いた・考えたことなどを振り返り、次の(新たな)目標や課題を見出し、次の活動につなげることができる。 活動して気付いた・考えたことやその意味・価値・つながり等を振り返り、見出した次の(新たな)目標や課題を見通しを立て情報を収集・整理・活用しながら(他者を巻き込んで)解決・達成していくことができる。	○コミュニケーション力 (聴く 伝える まとめる) 自分の考えを、他者に分かりやすく(例え話の挿入、図表や絵・写真・初音ボートの活用、話し方や声のボリューム・トーンの工夫など)伝え、理解・納得を得ることができる。 自分の考えを他者に分かりやすく伝えながら、質問(反論・同意)・説得・納得等を繰り返し、考えを広げ深めるとともに、まとめたり(合意形成)、新たな発想を生み出したりすることができる。	○他者とかかわり合う力・心 (思いやり 社会性 貢献) 多様な他者との多様なかわりを通して、(時には、ぶつかりながら)それぞれの良さやちがいを見出し、受け入れながら、助け合ったり、(競い合い)高め合ったりしようとしている。 集団(地域、学校・学年・学級等)活動における自らの役割とその目的・価値を見出し、多様な他者と認め合い・許し合い・補い合いながら、責任を果たしたり、誰かの役に立とうとしてしている。
				研究	テーマ 生徒の主体的な学びを進めるファシリテート 内容等 ○単元指導計画の工夫 ① 単元を貫く問いや課題設定の吟味(教材研究の充実) ② 生徒相互の学び合いの質の向上 ③ 振り返りの充実		
				めざす授業の姿	○一人一人が自分で考え、間違いを恐れずに意見を交わし、共に学び合っている。 ○学びを振り返り、分かったこと、考えたことを豊かに表現している。		

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価							福山市立		済美中		学校																														
年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）																															
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期（中期）経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策																										
5	課題発見解決 力、コミュニ ケーション力の 育成	★	継続	自ら課題を発見 し、仲間と協力し て解決しようとし る“学びに向かう 力”の育成	①学期ごとに生徒アンケート を分析し、授業改善に取り組 む。 ②各種調査の結果を分析し、 全教職員が授業に取り入れる ことで、主体的・対話的で深 い学びの実現に取り組む。 ③生徒が自ら目標を決め、自 ら学ぶ場を創造する。 ④教職員がICTを授業の中で 効果的に活用する。	①「授業の学習課題について、 「なぜだろう」「やってみたい 」と思います。」と「授業で他 の生徒と一緒に考えることは おもしろいです。」90%以上 。（生徒アンケート） ②学力調査 市平均以上。 ③「人はどのように学ぶか、何 にまずつかについて関心をもち 、教材研究を行っている。」90 %以上。（教職員アンケート） ④「授業では、自分にあった 考え、教材（授業プリント等） 、学習時間などになっていま したか」90%以上。（生徒アン ケート）	【評価指標①】87.1%、93.5% 【評価指標②】 <table><tr><th colspan="2">全国平均</th><th colspan="2">標準平均</th></tr><tr><th>国</th><th>数</th><th>国</th><th>数</th></tr><tr><td>3年</td><td>○</td><td>×</td><td>—</td></tr><tr><td>2年</td><td>—</td><td>—</td><td>▲</td></tr><tr><td>1年</td><td>—</td><td>—</td><td>▲</td></tr></table> 【評価指標③】93.8% 【評価指標④】90.7% 授業交流週間を設定し、生徒が 主体的に学べる問いを精選し、 授業改善に取り組んだ。国数英 を中心にドリル学習を全校体制 で実施し、基礎学力の向上に努 めた。	全国平均		標準平均		国	数	国	数	3年	○	×	—	2年	—	—	▲	1年	—	—	▲	3	2	授業交流週間で既存の指導案 を活用して授業実践を行い、 教師の良さや課題を出し合 い、授業力を磨く。また「読 むスキル」を高めるための取 組を協議し、各教科または全 校体制で進め、主体的・対話 的で深い学びの実現を目指 す。国数英を中心にドリル学 習を全校体制で実施し、基礎 学力のさらなる向上に努め る。	【評価指標①】84%、93% 【評価指標②】 <table><tr><td>2年</td><td>国-1.8</td><td>数-6.3</td></tr><tr><td>1年</td><td>国-1.5</td><td>数-2.1</td></tr></table> 【評価指標③】○○% 【評価指標④】92% 授業交流週間を設定し、既存の 指導案を活用して授業実践を進 めた。振り返りを全体共有し、 各々に単元構成やワークシート 、生徒への声かけなどを見直し て授業改善に取り組んだ。国数 英を中心にドリル学習を全校体 制で実施した。3学期には1、 2学期の復習として同じ問題に 挑戦させ、確実な基礎学力の 向上に努めた。	2年	国-1.8	数-6.3	1年	国-1.5	数-2.1	3	3	3	授業交流週間を継続し、授 業改善に取り組む。 家庭学習の定着に向けて、 学習方法を示し、全校体制 で基礎学力の向上に努め る。校区での連携体制を持 続し、9年間で育つ力を育 成したい。
全国平均		標準平均																																							
国	数	国	数																																						
3年	○	×	—																																						
2年	—	—	▲																																						
1年	—	—	▲																																						
2年	国-1.8	数-6.3																																							
1年	国-1.5	数-2.1																																							
3	他者とかかわり 合う力・心の育 成		継続	済美6行動の「人 のために動く」活 動を活性化させ、 生徒の自己有用感 を高める。	係活動や教科系の役割を担うこ とで、学級内での居場所をつ くり、自己効用感を高める。 ①全教員が各生徒への肯定的評 価を積極的に行う。 ②生徒会を中心として生徒が企 画・運営する活動を増やす。 ③不登校対策担当教員を中心に 、不登校生徒対応を充実でき る。	①「学級内では、お互いの考え や意見が認められていると思う 」95%以上 ②「先生は、自分のことを見て くれている」95%以上 ③不登校生徒の割合が前年度市 平均以下（諸課題集計表） ④不登校対策会議を月1回以上 もち、子どもの変化をいち早く 把握・共有・対応を行う。	【評価指標①】95.9% 【評価指標②】98.1% 【評価指標③】市平均以下 授業や行事を通して教職員が生 徒へ肯定的評価を積極的に行っ た。委員会活動（読書クエスト） を中心に生徒会主体での活動を行 った。月に1度、不登校対策議 会を実施し、不登校生徒への対 応について検討して素早く対応 した。	3	3	合唱コンクールなどの縦割り 活動を仕組み、生徒の頑張り をさまざまな角度から伝える 取組を進める。委員会活動や 小中一貫の動きについても生 徒会主体で実施する。月に1 度の会議を継続的に実施し、 スピード感のある丁寧な取組 をする。	【評価指標①】93.2% 【評価指標②】95.8% 【評価指標③】市平均以下 校区で共通課題を設定し、生徒 主体で課題解決に向けた取り組 みを進め、全校集会で振り返り を行った。来年度に向けて新た なリーダーに向けて研修を行い 、縦割りの行事を通して生徒の 成長を促していけるように進 めていく。	3	3	3	所属を越えた生徒情報の連 携を継続して行い、生徒への 肯定的評価を適切に進め ていく。生徒主体での委員 会活動を活性化させ、自己 効用感を高める。校区での 連携体制を継続し、地域で 育つ子どもを育成する。																										
1	生徒及び教職員 が元気・笑顔で 生活・勤務でき る環境づくり		新規	生徒及び教職員が 主体的に目標設定 や改善策を考え、 充実感を持って生 活する。	①「スケジュール管理」と 「ノーメディアDay」を設定 し、生活習慣を見直す。 ②地域への情報発信と交流を 行う。 ③企画委員会等で業務改善 等の協議を行うとともに自 身の資質向上に係る目標・ 方策を設定し、取り組む。	①「勉強の計画を立てる」 55%、「自ら進んで勉強し ている」60%以上 ②「地域に貢献している」生 徒80%以上 ③「日々の仕事の中でやりが いや充実感（達成感）を得ら れている」教職員90%以上	【評価指標①】72.3% 【評価指標②】67.7% 【評価指標③】87.5% 生徒全員にスケジュール帳を使 用させている。ノーメディアDay の設定は校区で検討中である。 生徒が校区のボランティア活 動に進んで参加した。管理職 による授業観察・各研修への 参加促進を行った。	3	2	ノーメディアDayを含めた学 習計画をスケジュール帳で定 着させる。地域の様々なボラ ンティア活動への参加と活動 内容をHPに掲載し地域へ発 信する。教員が校外研修等で 得た情報を校内研修で共有 し、授業改善に活用する。	【評価指標①】74.9% 【評価指標②】70.0% 【評価指標③】88.8% ①学年によって実施のばらつき があった。今後も継続する。 ②ボランティア活動への参加は 希望者だったので偏りがあった 。今後は学校全体での活動を 考える。 ③個人で「やりがい」の定義が 違うが、生徒に力を付けるた めの仕事には変わりないので、 結果としては良い。	3	3	3	①校区で一貫した取組を行 い、検証を行う。 ②中学生に期待されている中 学生の役割を捉え、地域の方 と交流できる機会を増やす。 ③教員ひとりひとりが十分 力を発揮できるように、今後 も一層職場環境を整える。																										

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。